

農水省の11年度概算要求

公共 2.9%増の6752億円

農林水産省は、2011年度概算要求で公共事業費6752億円(前年度比2.9%増)を要求した。これとは別に「元金」170億円の上積みも求めた。

農産物産出額の増の2241億円。基礎的の水利施設の長寿命化対策、食料自給率向上のための基礎整備を推進する。戸別所得補償制度の本格実施に向け、戦略作物生産拡大関連基礎整備事業費220億円を

要求、戦略作物の生産拡大のための排水改良、老朽化施設の修繕を実施する。

また、戦略作物生産拡大関連施設緊急整備事業費として128億円を要求。乾燥調製施設や加工施設の整備を支援する。

林野公共は、前年度比10.9%増の2074億円を要求する。内訳は治山608億円(11.4%減)、森林整備1465億円(24%増)。森林管理・環境保全直接支払制度に570億円を充て、搬出間伐などの森林施業、森林作業道の開設などを推進する。

このほか水産基礎は724億円(9%減)、海岸は41億円(10%減)を要求。農産物産出額の増の2241億円、同額の1500億円、災害復旧費は173億円(10%減)を求めた。



江崎社長の説明を聞く参加者

また、芝山工場場の松浦勉生産本部長は「昨年からこの夏祭り

また、夕方からの第二部夏祭りでは、多くの花火が打ち上げられたほかに、飲み物や食べ物などに交換できる引換券が近隣住民など参加者全員に配られ、工場敷地内の特設会場には楽しい笑い声が響いた。

産廃処理業者の「黒姫」 生物多様性調査を開始

生物多様性条約の第10回締約国会議(COP10)が名古屋市内で開かれることし、東京都内を中心に関東全域で産業廃棄物処理事業を展開する黒姫(足立区、渡辺明彦社長)は、8月から生物多様性調査に取り組み始めた。

それぞれにふさわしい環境で生き続け、健全な生態系が持続するように、人間の活動を自然に調和させることが重要だといわれている。

同社は、産業廃棄物処理業界で先導的役割を果たすべく、2001年2月のISO14001認証取得を皮切りに、環境省や東京都、中間処理場を置く千葉県のエコプロ

プロジェクトへの参加、カーボンオフセット砕石の販売と中国内蒙古の植林など数々の環境対策事業を展開。今回の取り組みもこうした流れを受けた事業者意識、社会問題に対する自覚が背景にある。

渡辺社長は、生物多様性に取り組む目的を「経営理念の実現」と言い切



調査の様子

社会と顧客から必要とされる。社員を育てるといふ方針。これらと整合する。生物の視点で自然環境調査を行い、生物多様性の現状を把握。その土地のポテンシャルに見合った生物多様性の保全、効果に期待を込める。

目的は「経営理念の実現」

生物多様性とは、あらゆる生物種で成り立つ生態系の豊かさやバランスが保たれ、生物が過去から未来へと伝える遺伝子の多様さ、生命の進化や絶滅という時間軸上の変化も含む概念。地域固有の歴史が育んだ生物がそ

具体的活動は、生態計画研究顧客思考、社会思考の組織と風土を形成し、社員市、小河原(孝生社長)と、カーボンの強化、経営基盤の安定

